

稚内高校のここ学びの丘から、遙か西に望む利尻山、その白い稜線と、青さを増す空色のコントラストに、巡る季節の中で、ここ宗谷にも確実に春がやって来ていることを感じる本日、

稚内市長 工藤 広 様

PTA 会長 白川哲也 様をはじめ、多数の御来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和8年度北海道稚内高等学校全日制課程入学式を挙げていただきますことを、厚くお礼申し上げます。ただいま、入学を許可しました普通科93名、商業科36名、衛生看護科15名の新入生のみなさん、入学おめでとうございます。整然かつ堂々と入場し、凜として呼名に応えるその姿に、本校生としての、自覚と決意が伝わってきました。「ようこそ稚内高校へ」。私たち教職員一同、みなさんを心から歓迎いたします。また、保護者の皆様には、お子様の晴れ姿に喜びもひとしおと拝察いたします。あらためてお祝いを申し上げますとともに、お子様を本校へあずけいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、新入生のみなさん、今から、新しい生活が始まります。真剣に自分自身と向き合い、ほかの何者でもない自分をつくりあげていくこととなります。「自分探し」ではありません。自分は作り上げられていきます。そのスタートにあたり、私から1つ伝えておくことがあります。それは学校教育目標です。「多様な学びを力に、志高く社会に貢献する人」もう一度言います。「多様な学びを力に、志高く社会に貢献する人」、これが全日制課程の学校教育目標です。この目標というのは、卒業までの3年間、衛生看護科であれば専攻科を修了する5年間かけて、私たちはこのような人になって卒業します、という状態目標です。学校における全ての教育活動が、この学校教育目標に紐付き、本校校歌にある「北斗の星の差すところ」がこれとなります。

「多様な学び」とは、複数学科を擁する本校の多領域の教育課程、教科横断的な学び等の内容、また個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学び等に示される学び方、地域連携やインターンシップ等あらゆる学びの場面を意味し、求められる教育の方向性を広く包含しています。

「志」とは、自分の生き方や社会への関わり方について主体的に考え、自らの目標を持つことを表します。単なる自己実現ではなく、他者を尊重する心、思いやり、社会課題に目を向ける姿勢、自分の力を社会のためにどう活かそうとするかの意識を含んだものです。そして「社会貢献」とは、特別な何かを成し遂げることを迫っているのではなく、他者と協力して課題を解決する、地域社会に関心を持つ、自分の役割を果たす、といった日常の行動の積み重ねに重きをおいています。本校生徒が稚内高校を離れた後も、地域や社会の中で必要とされる存在になることを期待し、生徒会生徒、先生方職員、学校評議員の方々にご意見いただき、協議しながら策定しました。

本校は、100年以上の長い歴史があります。地域の皆様に支えられ、信頼と期待を受けながら、ここで学びを積み重ね巣立った卒業生は、2万を優に超えます。一方で、大きく変化する時代の潮流にあって、社会から求められる力も、学びの在り方も、少しずつ姿を変えてきています。哲学的パラドクスの思考実験で、「テセウスの船」というものがあります。古代ギリシャの英雄テセウスの功績を称えた船を保存したとき、その古くなった部品を少しずつ取り替えていく。最終的に、元の部品が1つも残っていなかったとしても、それは同じ英雄の船と言えるのかどうか、という問いです。

本校もまた、時代に合わせて、学びの姿や目指す目標を、更新し続けています。しかし、それでも変わらないものがあります。それは、この学校が、地域から信頼され、生徒一人一人の成長を大切にしてきたという事実です。だからこそ私は、本校はこれからも「同じ学校」であり続けると考えています。変わりながら、変わらずに在り続ける学校です。

新入生の皆さん。どうかこの学校で、多様な学びに出会い、自分の可能性を広げ、志を高めていってください。そして、自分なりの目標を見つけ、一步一步、前に進んでいってください。

結びになります。保護者の皆様、冒頭に「お子様をおあずけいただき感謝申し上げます」とご挨拶しました。3年後もしくは5年後に本校の学校教育目標である「多様な学びを力に、志高く社会に貢献する人」に叶う、気骨ある若者としてお返しできるよう、教職員一同、全力を挙げて、信頼される学校づくりに邁進していく所存です。是非とも、本校の教育活動に対し、ご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新入生のみなさんが、本日今日から、ここ母校とするべく稚内高校で、その志の、更なる高みを目指し、充実した高校生活を送ることを祈念し、式辞といたします。

令和8年4月8日

北海道稚内高等学校長 小林洋介